

情報通信審議会 情報通信技術分科会 ITU 部会  
地上業務委員会（第74回） 議事概要

1 日 時

令和5年1月20日（金）13:00～14:15

2 場 所

Web会議

3 出 席 者（敬称略、順不同）

[委員・専門委員]

三瓶 政一（主査：大阪大学）、辻 宏之（主査代理：情報通信研究機構）、足立 朋子（東芝）、新 博行（NTTドコモ）、飯塚 留美（マルチメディア振興センター）、内田 信行（楽天モバイル）、大槻 秀夫（日本無線）、齊藤 佳子（パナソニック コネク ト）、袖 美樹子（国際高等専門学校）、西岡 誠治（電波産業会）、福家 裕（日本電信 電話）、増田 浩代（富士通）

[関係者]

本多 美雄（エリクソン・ジャパン）、武次 將徳（日本電気）、菅田 明則（KDDI）

[事務局]

総務省移動通信課新世代移動通信システム推進室 増子室長、吉積課長補佐、重成係 長、杉山官

4 配 付 資 料

資料地-74-1	地上業務委員会（第73回）議事概要（案）
資料地-74-2	ITU-R SG 5 WP5D第42回会合報告書（案）
資料地-74-3	ITU-R SG 5 第19回会合報告書（案）
資料地-74-4	ITU-R SG 5 WP5D第43回会合への日本寄与文書（案）
資料地-74-5	ITU-R SG 5 WP5D第43回会合の対処方針（案）
参考資料1	ITU-R SG 5 WP5D第43回会合の開催案内
参考資料2	ITU-R SG 5 WP5D第43回会合の日本代表団一覧
参考資料3	地上業務委員会 構成員名簿

5 議 事 概 要

議事に先立ち、事務局より以下説明があった。

情報通信審議会 専門委員の任期2年が本年1月5日に満了し、翌1月6日付けで任免の発令が行われたことに伴い、1月20日午前まで行われていたITU部会において、地上業務委員会等、ITU部会傘下の委員会の主査及び構成員の指名が行われた。地上業務委員会については、主査として大阪大学の三瓶政一氏が指名され、また地上業務委員会の構成員として参考資料3のとおり指名された。

また、三瓶主査により本委員会の主査代理として情報通信研究機構の辻宏之氏が指名された。さらに、地上業務委員会傘下の各ワーキンググループの主任について、三瓶主査により、陸上移動WG主任として情報通信研究機構の辻宏之氏、航空海上移動WG主任として日本無線の大槻秀夫氏、固定WG主任として日本電信電話の福家裕氏、IMT WG主任として電波産業会の西岡誠治氏がそれぞれ指名された。

(1) 地上業務委員会(第73回)議事概要について

【資料地-74-1】

地上業務委員会(第73回)の議事概要について事務局から説明があり、意見等がある場合は、本日1月20日(金)中に事務局に連絡することとされた。

(2) ITU-R SG 5 WP5D 第42回会合の報告について

【資料地-74-2】

資料地-74-2に基づき、事務局より前回のITU-R SG 5 WP5D第42回会合の報告が行われた。

(3) ITU-R SG 5 第19回会合の報告について

【資料地-74-3】

資料地-74-3に基づき、事務局より前回のITU-R SG 5 第19回会合の報告が行われた。

(4) ITU-R SG 5 WP5D 第43回会合への日本寄与文書(案)について

【資料地-74-4】

事務局から、ITU-R SG 5 WP5D第43回会合への日本寄与文書案は計8件であり、このうち資料地-74-4-2については日中韓、また、資料地-74-4-3については日韓の共同寄与文書であるとの説明があった。

【資料地-74-4-1】

「ITU-R M. 1036-6勧告改訂案の最終化」について、新専門委員から説明がなされ、以下の質疑応答の後、承認された。

三瓶主査 RAに持ち込まれる内容の種類は毎回異なるのか。

新構成員 然り。  
三瓶主査 (RAに持ち込まれた内容について、) 結局、議論はどのような経緯をたどったのか  
新構成員 最終段階であるRAで決着する結果になっている。  
三瓶主査 これまでの経緯を繰り返すべきではないが、会議では、同じ流れとなるのはやむを得ないという考え方も多いのか。  
新構成員 そのような考えの参加者が多いと思われるが、まずは(RAへの持込みを回避すべく) 一度頑張ってみようという様子である。  
三瓶主査 了。

【資料地-74-4-2】

「勧告ITU-R M. 2071-1の改訂草案にむけた作業文書への修正提案」について、エリクソン・ジャパンの本多氏から説明がなされ、以下の質疑応答の後、承認された。

三瓶主査 基地局側がほぼ収束したとのことだが、移動局側で揉めそうな点はあるか。  
本多氏 不要輻射の制限値等は異なるが、2つの勧告の構成等は同じである。基地局側の合意があれば問題ない見込みである。  
三瓶主査 了。

【資料地-74-4-3】

「Vision勧告に盛り込むための100GHz以上の周波数帯に係る新レポート草案の要約提案」について、日本電気の武次氏から説明がなされ、以下の質疑応答の後、承認された。

三瓶主査 中国が共同提案から抜けた理由は如何。  
武次氏 92GHz帯の記載があることを懸念したと思われる。前回第42回会合で本報告草案の範囲は「100GHz以上」となっていたところ、日中韓で「92GHz帯以上」とする共同提案について議論したものの、まだ中国政府では、92GHz帯以上の扱いが決まっておらず共同寄与文書から外れたいと連絡があり日韓共同提案となった、という経緯がある。  
三瓶主査 了。

【資料地－74－4－4】

「100GHz以上の周波数帯に係る新レポート草案への2, 26, 97と158GHzにおける建物侵入損失研究の新規annex提案」について、日本電気の武次氏から説明がなされ、以下の質疑応答の後、承認された。

新構成員 本文の修正をお願いしたい。表紙 3 Proposal 「as a revision of」を「as a new annex」、本文 4 Summary 「contribution」を「annex」とした方が良い。

武次氏 了。修正したものを提出する。

【資料地－74－4－5】

「100GHz以上の周波数帯に係る新レポート草案への5.2章の記載提案」について、日本電気の武次氏から説明がなされ、特に質疑なく、承認された。

【資料地－74－4－6】

「100GHz以上の周波数帯に係る新レポート草案へのオフィス環境における伝搬損失研究の新規annex提案」について、日本電気の武次氏から説明がなされ、以下の質疑応答の後、承認された。

新構成員 本文の修正をお願いしたい。4 Summary 「In this contribution」を「In this annex」とした方が良い。

武次氏 了。

【資料地－74－4－7】

「100GHz以上の周波数帯に係る新レポート草案への屋内環境における伝搬損失及び交差偏波特性研究の新規 annex 提案」について、日本電気の武次氏から説明がなされ、質疑なく承認された。

新構成員 資料4-6と同様、4 Summary 「In this contribution」を「In this annex」とした方が良い。

武次氏 了。

【資料地－74－4－8】

「2030年前後のIMTの構想に係る新勧告草案の作業文書の修正提案」について、KDDIの菅田氏から説明がなされ、以下の質疑応答の後、承認された。

- 新構成員 2点ある。英文 5.1.1章は既存IMTとIMT-2030の関係というタイトルのsubsectionになっているところ、「IMT-2030は既存のIMTとinterworkするかもしれません」というsubsectionのタイトルを示す一文が削除されているが、削除の妥当性如何。またこの削除に対して、追加された文章は全く別の内容への言い換えとなっていて、ロジカルでないように思われたため、御提案の趣旨を伺いたい。
- 菅田氏 削除の箇所について、UASやHIBSに加え、いわゆるNTNということで衛星を含みうる想定のもと、interworkという語を入れていた。ただinterworkという語は、IMTがWP 5Dが扱うterrestrialのシステムの範ちゅうを超えるNTNとも相互に通信すると取られることを懸念し削除した。追加箇所については、IMT-2030はIMT-2020でカバーできていない箇所もカバーするという認識がWP 5Dにおいてある程度了解されていることから、その点を強調することを意図したものの。
- 新構成員 CoverageをCapabilityに含めることに懸念が示されているため、ここに書くということか。
- 菅田氏 定量的な表現が難しいため、レーダーチャートからは外したが、定性的な説明箇所に追記したということ。
- 新構成員 了。どのような議論となるか分からないが、WP 5Dでの議論に任せたい。
- 三瓶主査 Beyond 5GはNTNが必須というのが共通認識だと思うが、WP 5Dでは、Beyond 5Gの要求条件を決める時に、NTNは除くのか。
- 菅田氏 そうなる可能性もある。米国等が宇宙、衛星を含めることに強く反対している。ホワイトペーパーでは、含めた記載としている。5.1.2章で他のシステムとの関係の章を設けることとしており、そこではNTN相当のシステムとの接続を「interwork」ではなく、「interconnection」と表現している。5.1.2章では、衛星との相互接続についての要求条件をWP 5Dでまとめるのではなく、WP 4Dでの衛星の詳細な議論動向を踏まえた上で、今後考慮していく必要があるということを述べるものとなっている。
- 三瓶主査 3GPPでは、NTNも含めた議論をしている。もし含めないとなると、これまでの標準化の流れに反することになるため、対応は慎重にした方が良い。

- 菅田氏 現状WP 5Dと4Dでの棲み分けがあるためどうなるか分からないが、IMTとNTNの相互接続を完全に議論から排除するというにはならないと思われる。
- 三瓶主査 了。会合での議論に応じて対応してほしい。
- 飯塚構成員 「coverage」の定義は如何。horizontalとverticalを使い分けているのか、それとも両方を含む概念なのか。
- 菅田氏 今まではhorizontalのみを示していたが、UASやHIBSの登場で、成層圏以下のverticalな部分も含めるようになってきているため、両方を示すようになってきている。
- 三瓶主査 UASやHIBSは地上のスペクトルを使っているため、地上システムの範ちゅうと整理され、当然LE0などは出てこないわけだが、そういった分け方も考える時期に来ているのではないかと考えるが、柔軟にご対応願いたい。

(5) ITU-R SG 5 WP5D 第43回会合の対処方針案について

【資料地-73-5】

ITU-R SG 5 WP5D第43回会合の対処方針（案）について、事務局から説明が行われ、特に質疑なく承認された。

(6) その他

参考資料について、事務局から説明があった。

以上